

2018 年度事業報告書

【期間】 2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

1. 全体総括

1-1 2018 年度全体総括

内閣府 NPO ホームページによると、NPO 法人認証総数は、2017 年度 51,868 団体ですが、2018 年度には、51,609 団体と減少しています。これは、特定非営利活動促進法、1998 年 12 月施行以来、初めてのことで、設立数よりも、解散したり認証取り消しとなった団体数のほうが増えたということでしょう。

特に千葉県では、全国的にも東京都について認証取り消し数が多く、昨年は 240 団体が取り消しされています。認証取り消しは、3 年間事業報告書等未提出の理由が最も多いのですが、法人としての責任感の有無や理事の資質はさておき、法人を継続運営する収益を出せなかったのではないかと推測します。

中小企業庁から「NPO など新たな事業・雇用の担い手をめぐる現状と課題」(2014 年 6 月)という分析の報告書が出されていますが、それを読むと、「人口減少に伴って官民ともに事業の担い手が縮小すると同時に、ニーズが多様化し新たな需要が広がる中で、非営利民間組織の活躍が期待される領域が拡大している。」とあります。「行政コストの増大によりサービス提供は縮減しているが、市民のニーズが多様化する中で、求められるサービスは拡大しているので、『非営利民間組織によるサービス提供』に期待したい。」とあります。つまり、「採算の取れないところは、担い手を民間営利企業から非営利組織に移行させたい。」ということでしょう。「非営利サービス」として、NPO が担い手となるように支援策を進めていくということでした。

もう一つ、この中小企業庁の報告書には、NPO の課題として、「内部留保で資金を残し再投資するという発想が少ない。」「それぞれの NPO 法人の規模が小さいものが多い」という指摘が上がっています。

その後、融資限度額が 3000 万、5000 万といった起業支援の資金が拠出されました。優秀な起業家も輩出しましたが、NPO 総数に関しては、2018 年には減少傾向に転じ、「NPO 立県」を謳った千葉県では、全国認証取り消し数第 2 位になってしまったのです。これが粗製乱造なのか、立ち上がった団体をサポートする体制がなかったのかわかりませんが、この数字は、NPO も精査され評価されていく時代になってきたこと、経営手腕がなくては、少なくとも「法人経営」はできないと読むこともできるのではないのでしょうか？

CoCoT の 2018 年度を振り返ると、私たちが抱えている課題もこの社会状況を反映しています。2017 年度から掲げ続けている「内向きの縮小経営から脱して、積極的な経営に転換し、資金調達を強化すること」が 2018 年度も最も大きな課題でした。取り組みの一環として、2018 年 12 月までのスタッフを配置した体制を、2019 年 1 月より、事務局スタッフなしの運営体制に移行し、人件費の削減と業務のスリム化、事業のコンパクト化をある程度実現しました。

資金調達に関しては、寄付を財源とする案は実現に至っていません。その理由として、ファンドレイジングに関わる人材不足と、寄付メリットとして「認定 NPO 法人」の未取得の問題があります。また、収益の可能性として挙げられる CoCoT が持っている知見について、製品化ができていません。

既に取り組んでいる調査研究や企画実施ではパートナーを積極的に探し、事業を拡大していく方向に進んでいます。

あんしん電話事業へのかかわり方については、2018 年度事業方針にだされていたように、方向性を出す年でした。今年度、一般社団法人あんしん地域見守りネットから、新システムによる事業展開を引き継ぎました。他地域への波及と政策への位置づけ、事業の継続性を担保するための収益化を目指すことで合意しました。一方で、「あんしん電話地域見守り協議会」から一般社団法人を立ち上げ、理事となり運営してきた自治会の役員の方々は、本来の地域活動に戻り、松戸市内の孤立した高齢者に寄り添いながら見守り活動を定着させ、松戸市と連携して実態を作り続けていくことに専念することになりました。今年度で、両者は、各々に組織としての整理ができ、住み分けていくことになったと認識しています。

2. 個別事業報告

2-1 事業系

(1) コミュニティ・コーディネート部門(地域活性化センター松戸)

- ①【地域連携】地域活性化センター松戸の運営
- ②【地域連携】一般社団法人あんしん地域見守りネットと共同事務所の経営
- ③【地域連携】あんしんほっとラインの運営

上記については、2018年12月まで、スタッフを配置した。

2019年1月より、業務に人員を配置せず、人件費の削減と業務のスリム化、事業のコンパクト化を目指した。

④【地域連携】松戸東口周辺活性化「ヒカッテルネ！松戸マルシェ」事務局

松戸東口周辺活性化「ヒカッテルネ！松戸マルシェ」については、産業振興センターの補助金の活用はできなかったが、新しい試みが生まれ、成果は大きかった。課題は継続のための資金作りである。以下、取り組んだ項目である。

- ・東口商店会との連携
- ・空き店舗を活用した良文堂と民間企業東イン株式会社とのコラボレーション
- ・株式会社エクシングとの連携によるカラオケマルシェの開催
- ・ちいき新聞への掲載
- ・事務所をお借りしていた栄久蕎麦屋さんの廃業に伴い、栄久さんからの寄付

<松戸マルシェ2019 年度開催実績>

開催予定 8回 実施回数 9回

No	日付	内容
1	4月15日	荒天のため中止
2	5月20日	実施
3	6月17日	実施
4	7月28日	実施 良文堂企画「楽しく暮らす ヒント&ワークショップ」
5	7月29日	
6	8月	暑いのでお休み
7	9月16日	実施
8	10月21日	ハローウィン
9	11月18日	実施カラオケマルシェ
10	12月16日	実施 クリスマスイベント
11	1月	寒いのでお休み
12	2月	寒いのでお休み
13	3月17日	実施

⑤【人材育成】まちの学び舎「まちばカレッジ」運営

ア) 哲学カフェの継続

取り組むことはできなかった

イ) 提案力強化セミナー 実施

受講生のその後をみると、

- ・自治体の競争入札で事業受託
- ・民間助成金取得
- ・空き店舗活用事業の実施など、大きな成果が上がった。

■課題解決を事業化するための提案力セミナー(全5回)

日時:2018年7月~11月

参加費:各回5000円(CoCoT会員4000円)

定員:5名/受講者:3名

講師:小山淳子

会場:CoCoT事務所

△全5回の集中講義とワークショップ

7月9日 第1回 社会背景の分析

8月6日 第2回 データの見つけ方

9月3日 第3回 企画書の書き方①

10月2日 第4回 企画書の書き方②

11月5日 第5回 パワポ作成

△受講者の個別相談も実施

ウ)YS市庭コミュニティー財団助成事業との連携
実施に至らなかった

⑥【NPO支援】まるごとスマイルファンド(休止)

(2)コミュニティ・シンクタンク部門

①調査研究事業

【地域連携】高齢化社会に対応した地域の見守り体制づくりの研究

委託者:公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団

継続実施。

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム 村山 陽 氏、高橋 知也氏と連携協力

②【地域連携】あんしん電話事業構築のコンサルティング

ア)松戸市外の自治体への導入支援

イ)千葉県外の自治体への導入支援

あんしん電話事業を自治体向け孤立化予防事業として提案し、導入構築の支援する取り組みは、営業の初期段階であるため、成果には結びついていない。

③【NPO支援】組織運営マネジメントのコンサルティング

ア)NPO支援センターコンサルティング

【NPO支援】流山市民活動推進センター運営サポート

イ)NPO等の社会課題に取り組む法人・組織の運営支援

相談業務の有料化

・非会員有料相談 1件

・会員相談 4件

④【人材育成】

ア)講師派遣

千葉県社会福祉協議会講座講師

流山市コミュニティ課講演 講師

流山市民活動推進センター 講師

⑤【人材育成】企業のCSRと研修

中小企業の本来業務で地域社会に貢献するという、新しい視点で見直していくためのコンサルティングと研修を行った。

■企業向け新人研修

第1回 4月20日 「アイスブレイク」「会議の仕方」

第2回 5月20日 「ファシリテーターの役割」「合意形成を進めていく体験」

第3回 6月27日 「観察と発表」「まちあるきワークショップ」

1-3 管理系

(1) 広報

メルマガの定期的発信

HPの情報更新

Facebook・Blogの身近な情報発信

(2) 組織運営

・総会

・理事会…5回

・経営会議…6回

(3) 経営

以下を実施した。

① 財務

② 経理